I-17

火葬場の平面構成・断面形態の類型化と特徴分析に関する研究
―火葬棟と待合棟の建築計画上の違いに着目して―

A study on the Classification and feature analysis of planar compositions and cross-sectional forms of the crematorium
- The difference between cremation ridges and waiting ridges in architectural plannings -

○梶飛翔[1]，　山中新太郎[2]
*Tsubasa Kaji[1], Shintaro Yamanaka[2]

1．研究の背景・目的

理想的な火葬場像として，八木澤壮一ら[1]は「一般利用者の火葬場のイメージと要望」の研究において，***“利用したい火葬場は，「自然につつまれた」，「快適な待合室」，「他の会葬者と交わらず心ゆくまでお別れができる」火葬場である”***と述べている．

このことから，火葬行為・待合の空間は火葬場建築として一体的に計画されているが，それぞれに別の特徴があり，また，葬送行為と建築空間の関係性には，ある傾向が見られるのではないかと考えられる．

本研究では，対象事例となる火葬場を火葬棟と待合棟の関係性の違いに着目し，平面配置構成の類型化と，外部要素の取り込み方，上部自然光の有無の違いから，その現状を明らかにすることを目的とする．

2．研究対象と方法

建築資料研究所発行の「建築設計資料」[2][3],新建築社発行の「新建築」[4]に掲載されている竣工年 1983 年～2011 年の火葬場 36 事例を対象とする．

方法は①資料の平面図を用い簡略化を行い,火葬棟と待合棟の配置に着目しそれらの接続の仕方の傾向から類型化を行なう.②平面図・断面図・google earth・設計意図・写真を用い,火葬行為のシークエンスの要素（諸室や廊下など）の開口部に着目して,外部要素（庭園・水盤・森林などの自然要素）,上部自然光の取り込みの位置についての分析行う.③総括してまとめる．

3．用語の定義

本研究における「外部要素」とは主に火葬場建築周辺の，または建築に囲まれた庭・水盤・池・森林・などの建築の内部空間に風景として取り込まれる自然要素，または通路やホールに設置される坪庭・水盤・アトリウム・光庭などの自然要素を含んだ，または使用された空間やモニュメントを指す．ここでいう自然要素とは，木々や水などの，人工物とは真逆の要素をいう．

4．結果

4．1．平面構成の簡略化

調査対象の 36 事例の平面図・断面図をもとに fig.1 にまとめるように機能ごとに分類し,平面構成の簡略化を行なう.なお各機能の分類については,主に火葬行為を行う空間とそれに関連するエリア「火葬棟」と火葬待ちに使われる空間とそれに関連するエリア「待合棟」と,それ以外の機能（独立通路やホール,内庭）に分類する.葬式を行う斎場やそれに関連した機能を持つエリア「斎場棟」に関しても,平面図の簡略化の図には記したが,本研究においては調査対象外とする．

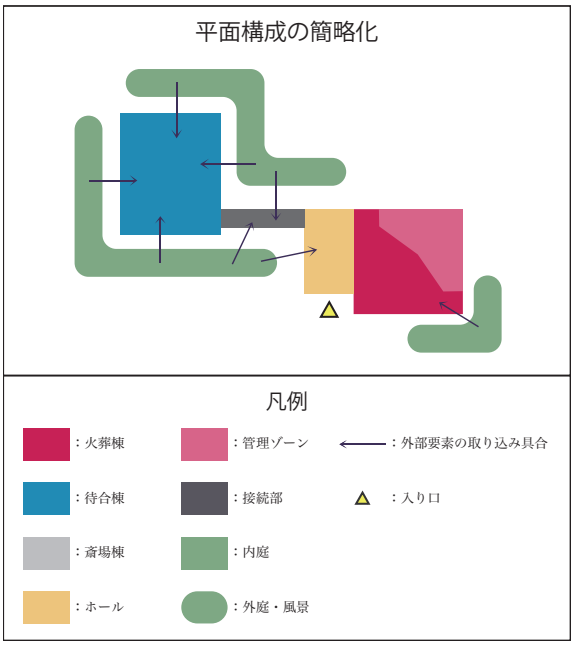

fig.1　平面図の簡略化

4．1．1．配置構成の分析

火葬行為の入苑→告別→見送り→待合→収骨→退出のうち，火葬棟から待合棟へ向かう見送り→待合間の部分を接続部と捉え，接続類型として分類した．結果，独立した通路を介し待合棟へ向かう［通路型］，ホールを通る［ホール型］，直接待合棟へとつながる［直接型］，中庭のある通路を通る［中庭型］の４つに分類された．

１：日大理工・学部・建築　２：日大理工・教員・建築

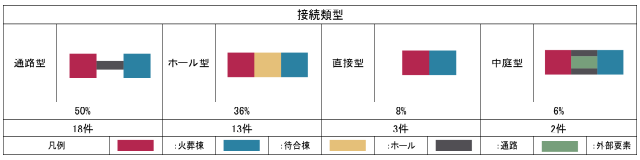

fig.2　見送り→待合間（接続部）の類型

4.1.2. 結果と考察

全体の 50%を[通路型],36%を[ホール型]が占める結果となった.火葬棟と待合棟が直接つながる[直接型]は少なく 8%で,3/36 件だった. これは,通路やホールなどの空間を介する配置構成の方が,火葬棟と待合棟の建築空間に差をもたせる仕掛けを挿入しやすいからだと考えられる.

4.2. シークエンス分析

4.2.1. 分析手法

火葬場におけるシークエンスとは, 入苑→告別→見送り→待合→収骨→退出の順路のことを指す. 古澤ら[5]は「火葬場建築における空間の配列と連続性および外部要素の取り入れ方に関する考察」において火葬場のシークエンスと外部要素の取り入れ方を室の連続性も含めて, その指標を作成している. この研究を参考に, 本項目では, 火葬場のシークエンスにおいて外部要素・上部自然光の取り込み位置とその傾向を読み取る.

ここでは葬送順路において主な空間とその通路, 告別→見送り→待合→収骨に注目する. 外部要素の位置については側面の開口部により外部要素を取り込む空間を,上部自然光の位置については自然光のみを取り込む開口部の存在する空間をそれぞれ抽出し,火葬場のシークエンスと照らし合わせ,36 事例のそれぞれの空間においての割合を示す.

4.2.2. 外部要素の位置

fig.3 に示すように待合周辺の空間（待合棟へ向かう通路と待合空間）への外部要素の取り込みが 36 件中 32,35,31 件見られた.

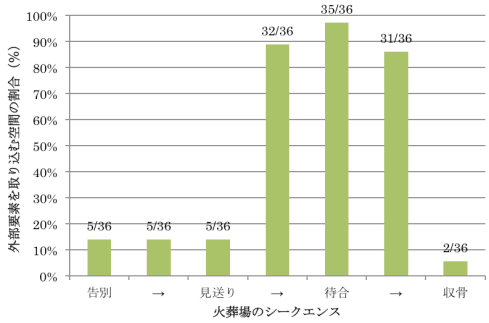

fig.3　シークエンスと外部要素の取り込みの関係性

4.2.3. 上部自然光の位置

fig.4 に示すように待合空間への外上部自然光の取り込みは 0 件であった.一方で,火葬空間周辺の要素への上部自然光の取り込みは比較的多く見られた.

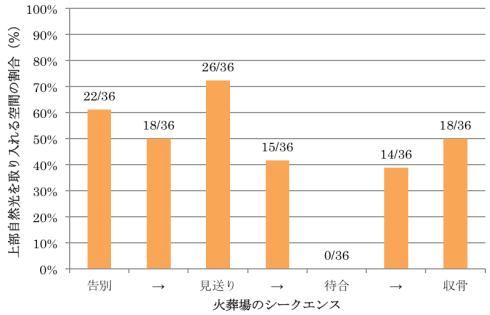

fig.4　シークエンスと上部自然光の取り込みの関係性

4.2.4. 結果と考察

火葬場建築における一番の傾向は, 待合棟へは側面の開口部による外部要素の取り込みが顕著に見られ, 火葬棟へは自然光の取り込みが多く見られる, というところであった. このことは, 建築空間に意図的に火葬行為の神聖さが反映されていることを示していることの表れだと考えられる.

5. まとめ

火葬場建築は, 火葬という非日常的行為を行うための建築物であり, それに合わせて開口部の開け方や各エリアの繋ぎ方を工夫し, 内部空間の演出が随所に非日常感の表現がなされていることがわかった. また, 火葬空間の非日常性とは異なり,待合空間では日常的空間に感じられるような演出も火葬場建築では意図されているものと考えられる.

【参考文献】

[1] 田村久子 八木澤壮一 武田至 大塚健介:「一般利用者の火葬場のイメージと要望」日本建築学会（関東）大会学術講演梗概集　pp537-538　2001.9

[2] 建築思潮研究所編 :「建築設計資料 46 葬祭場・納骨堂」建築資料研究社 1994.3.1

[3] 建築思潮研究所編 :「建築設計資料 109 葬祭場・納骨堂２」建築資料研究社 2009.7.30

[4]「新建築 第 87 巻 5 号」新建築社 2012.4.1

[5]古澤大輔 藤木隆男 小栗克己:「火葬場建築における空間の配列と連続性および外部要素の取り入れ方に関する考察」日本建築学会（東北）大会学術講演梗概集 pp553-554　2000.9